保健部　　ズーム会議録　6月17日（水）

参加者

西澤、藤原、大竹、丸田、村瀬、川邊、隈部、中川、見城、杉田、中島、茨木、高木、増渕、村松、西尾

埜村、中野、玉置

第1部

１）第2回正副部長会より　※ドライブ参照

　・夏季合研について報告

　・体育科における課題とは

２）研究

・研究主題について（概要）　※ドライブ参照

　保健部として、研究主題をどのように捉えていくか。

・見通しについて説明

　6月～9月までの見通しについて

３）コロナ禍で発信できること

・文科省資料紐づけ資料作成の報告

　現在、皆さんにご紹介していただいた資料を小体研HPにupしている。今後もup予定。

4）その他　①各校の保健学習・指導の状況

西澤先生

・大学が作成したものを使って指導を行った。保健指導と保健学習の連携、タイムリーな指導が必要。

村松

・渋谷区はズームでオンライン学習を進めている。現在、保健学習も進めているところ。また、手洗い指導も行っている。

村瀬

・コロナに関する指導は生活時程に沿って行っている。

・保健は6年生と3年生を始めている。6年生はコロナに特化して行っている。

玉置

・コロナについては一通り指導を担任に行ってもらった。

・学習は、今後学級で取り組むものと家庭学習で対応するものとに分けて行っていく。

藤原先生、杉田、中島

・4年生では、手洗いをコロナと関連させて実施した。

・保健指導「あいてますか」(標語)を用いて指導を行った。手洗い動画も発信している。

西尾

・「新型コロナに負けない」という指導を行なった。今は「生活習慣を取り戻そう」という内容を行っている。

・保健学習では6年生の内容が始まっている。

埜村

・保健指導は健康診断が始まっているため三密を防ぐ等を担任から指導してもらっている。

・特別支援学級に手洗いをメインにした清潔についての指導を行った。

見城

・手洗い指導を行なった。また、もう少ししたら栄養士と協力して免疫を高める内容を実施する予定。

・保健学習は3，4年生は少しずつ始めている。

中川

・給食が始まったので、衛生面をシビアに行っている。

・今後、手洗いチェッカーを使った実験を通して指導を行っていこうかと考えている。

第2部　「課題」の捉え～児童の具体的な姿から～

○全体説明　※ドライブ参照

○小グループ協議

１グループ

【保健学習の課題とは】

・「課題」と「疑問」の違いは何か。宿題の内容で言うと、『どうやったら健康になるんだろう？』は疑問で『健康になりたい』が課題ではないか。

・「課題」という言葉の意味が広いため、限定していかないと難しいのでは。問題点とするのか疑問とするのか。

・保健の課題の捉え方として、自分事と捉えて、自分自身の課題を見つけ、日常化できるようなこと。わかっていても行動に移せないのが保健の難しさだと思うので、保健指導と関連させてやっていったほうがよいと感じる。

・同じ体育科でも、運動領域は授業の中で課題解決ができる。保健は授業中に解決できないものが多く、自分の生活に戻らないとできないことであるため、課題の捉え方が難しいのでは。児童の具体的な姿としては、3，4年生だと、「お菓子の食べ過ぎ」「なかなか寝付けない」など実際の生活に結び付けやすい内容だと感じるが、5，6年生の内容は、喫煙・飲酒など今の自分の現実とは離れた内容が多いのでは

・3年生では、手洗いのチェックシートなどを使って課題を感じることができていたが、4年生では、体の中の変化については自分事として捉えにくいような様子が見られた。

・6年生は飲酒、喫煙共にロールプレイを入れて行っている。また、がん教育と組み合わせて行った時は、家族のことを思い返したりして身近に感じていた子もいる。また、心と体だったら緊張状態で汗をかく体験などをすると、より自分事として捉えられていた。

・保健部では、「その子自身の問題点」が課題になるのではないか。知識を得たうえで自分の生活と対比。そこで見つかるものが課題なのでは。

２グループ

・ポイントは子ども自ら本当にやりたい課題　個々に課題が違う
・子どものやりたいことと課題がズレる。そこを課題に合ったものに落とし込んでいくのは教師。
・子ども達がこうなりたいと思えるような授業
・全体の課題→個人の課題
　自分の課題→今までの生活を振り返ることができるか。
　教師がこんな課題をもたせたい。そのための手だては？
　自分の生活を振り返らせる手だても必要。自己実現。
・自分で課題を明らかにするのは難しい。教師側が考える課題の捉えが大事。

３グループ

児童の具体的な姿から

・運動領域と関連できないか。

・課題＝マイナスイメージではなく、プラスイメージを課題につなげていきたい。（例：今健康だけど、もっと健康になりたい）

・ゴールイメージ。マイスタート、マイゴール。

・全学年「生涯を通して」健康の「保持」「増進」を目指させる。

→児童一人一人の目的意識をもたせ、課題設定につなげていく。

→学年によっては明日実践できることもある。

・「将来の自分に向けて（ゴールイメージ）」そこにどう向けて課題をもたせていくか

・この課題は児童にとって適切かを判断する力を教師は身に付けていく必要がある。

・生活経験、家庭経験が一人一人異なる→正しい知識を得た上で、自分で考えて行動する力を身に付けさせたい。

部長より

　・次回もオンライン会議。日程は後日。

・前回・今回の話をもとに、次回までに課題についてまとめて提案する。資料の確認を確実に。

常任理事の先生方より

藤原先生

・マット運動などでは、開脚前転ができるようになるためにスモールステップを意識していくが、保健では、最終的なゴールイメージを考えていくことが大切になるのでは？

・子供達が設定した課題が、単元の目標に沿っているか、そこから外れていないか見ていくことが大切で、難しい。いずれにしても、こうやってみんなで話し合いを重ねていくことが大切。

西澤先生

課題が独り歩きしないように。研究主題を詳しく説明してくれていたので、学びを実現していくためにどうしたらよいのかを考えていくこと。宿題にも様々な課題が挙げられていたが、汎用的な文言の課題が必要。常に主題を忘れずに。